

第 34 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 坂口 大洋

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 8 点
- ・一般建築物部門 18 点
- 計 26 点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2013 年 9 月 18 日 (水) 13:30 ~ 14:30

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2013 年 10 月 5 日 (土) 10:00 ~ 16:00

於 せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 24 回東北建築作品発表会において応募 26 作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会 2013 年 10 月 5 日 (土) 16:15 ~ 18:00

於 せんだいメディアテーク 2 階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2 次審査対象作品として、約半数の 10~12 作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず 1 人 9 点ずつ投票を行った。その結果から、まず 5 票以上獲得した 10 作品を通過作品とした。次に 0 票の作品を落選とし、1 票と 2 票の作品について投票した委員より意見を伺った上で審議し落選とした。得票数が 3 票と 4 票の作品について議論し 4 作品を通過作品に加えた。

以上の結果、小規模建築物部門 6 点、一般建築物部門 8 点の合計 14 点を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 14 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会とし

て送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2014年1月26日(日) 13:00~17:00

於：日本建築学会東北支部会議室

小規模建築物部門ならびに一般建築物部門について、1作品ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑や審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行い、1人6作品以内を投票した。まず0票、1票の作品については落選とした。10票を獲得した1作品、次いで8票を獲得した2作品について全会一致で作品賞として選定した。また、7票、6票、5票を獲得した3作品について議論の上、賞に値するとし作品賞とした。4票と3票を獲得した2作品は特別賞とした。2票を獲得した作品について議論を重ねたが、特別賞には至らなかった。以上の審議により、小規模建築物部門については作品賞3作品、一般建築物部門については作品賞3作品とした。小規模建築物部門より1作品と一般建築物部門より1作品を特別賞とした。

(6) 選考結果

ハ乙女の△(デルタ)住宅

- 【所在地】宮城県仙台市泉区
【設計監理】意匠：(有)都市建築設計集団/UAPP 手島 浩之/武田 幸司
構造：皆本建築工房 皆本 功
【施主】個人
【施工】(株)共栄ハウジング(株)

「地形舞台」-中山間地過疎地域に寄り添う集落づくり拠点-

- 【所在地】福島県岩瀬郡天栄村湯本字居平6
【設計監理】意匠：(株)はりゅうウッドスタジオ/日本大学工学部建築学科浦部研究室
設備：(株)エム設備設計事務所/遠山設備設計事務所
【施主】福島県天栄村長 添田 勝幸
【施工】(有)丸大建設

くぼみの家

- 【所在地】青森県弘前市
【設計監理】意匠：蟻塚学建築設計事務所 蟻塚 学
構造：(株)建築構造研究所 大原 和之
【施工】(有)長谷川工務店

紅梅荘改築整備事業

- 【所在地】山形県最上郡最上町大字向町73-3
【設計監理】意匠：みかんぐみ
構造：金箱構造設計事務所
設備：オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド

外構：田賀意匠事務所/風土形成事務所/東北芸術工科大学
照明：岩井達弥景光デザイン

- 【施主】社会福祉法人豊寿会 理事長 吉田 八十八
【施工】建築：大場・北山・鈴木特定建設共同企業体
設備：弘栄設備工業(株)/東北電機鉄工(株)

こども園ひがしどおり

【所在地】青森県下北郡東通村大字砂子又字沢内地内

- 【設計監理】意匠：(株)計画工房 村上 美奈子
構造：(株)KAP 岡村 仁/桐野 康則
設備：(有)Z O設計室 柿沼 整三

【施主】青森県東通村

- 【施工】建築：鹿島建設(株)
設備：大成温調(株)
電気：(株)ユアテック
外構：野村建設(株)

まちの工房 まどか

【所在地】宮城県仙台市太白区袋原4丁目37-1

- 【設計監理】建築：(株)針生承一建築研究所
構造：(有)NEO 建築構造
設備：(株)企画設備計画

【施主】社会福祉法人 円

- 【施工】建築：(株)阿部和工務店
木工事：(有)山田工務店
電気：大日電気工業(株)
機械：(株)コネヤマ設備

特別賞 2点

花壇の立体長屋

【所在地】仙台市青葉区花壇4番17-305

【設計監理】大沼 正寛

【施主】大沼 正寛

【施工】建築：アトリエ海/奥山 功/大沼 正寛/

東北工業大学安全安心生活デザイン学科学生有志

設備：富国設備工業(株)

電気：(株)菊電社

えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)

【所在地】福島県本宮市本宮字千代田60-1

- 【設計監理】建築：(有)阿部直人建築研究所
構造：エーユーエム構造設計(株)
設備：(株)三和設備設計

【施主】本宮市長 佐藤 嘉重

- 【施工】建築：佐藤工業(株)
機械：(株)小山設備
電気：(株)佐々木電気商会

(7) 講評

作品賞

【八乙女の△住宅】

北斜面を造成した振興住宅地に建つ「八乙女のデルタ住宅」は、等高線に沿って通る道路の台地上側に高さ 2m 以上のコンクリート製擁壁が連続し、台地下側に宅地が一行に並ぶという特異な景観の中にあり、間口に対して奥行きが長く、面積が 55 坪余りといった建物や庭を計画する上で厳しい敷地条件ですが、建物の平面形を三角形として 2 つに分割、南側の道路を挟んだ隣地や東西の隣地に対する壁面を、窓のないもの、あるいはプライバシーを確保した窓とすることで、プライバシーに配慮された居室や 2 階レベルの中庭が確保されています。リビング棟の 2 階の居間は、北側の高低差や緑地帯を巧みに利用して外部に開かれた最も魅力的な空間となっています。

前面道路に窓のないチャコールグレーの四角い壁のみが面するこの住宅は、住宅地の景観において異質であるものの、無駄を省いたミニマムな建築を検討した結果であり、それでいて豊かな空間を内包しています。仙台市に数多くある新興住宅地の中でも難しい環境条件を見事に活かしており、小規模建築物部門の作品賞に相応しいものと評価します。

【地形舞台】

築 100 年を過ぎ、10 年間空き家になって朽ちかけていた農家が天栄村の交流施設として蘇りました。背景や客席となる斜面と庭による「舞台」、改築時の間仕切りを取り払い、構造的な改良を加えて、シンプルで広い平面とした「土間」、住人の記憶を留める居心地のよい「座敷」からなっています。村における空き家の活用モデルとして位置付けられており、現在は湯本地域協議会が村から受託し運営しています。集落の住人を対象とした通常の利用に加え、新規に外部者も利用可能な朝市や会津柳津の神楽（県指定無形民俗文化財）などが催されるなど、温泉やグリーンツーリズムなど山間地の魅力を発信する拠点としての期待が高まっています。新たな用途に対応させた結果、改修部分は多いですが、土間の空間性を復旧し、外観や座敷は過去の記憶を留めるなど、用と美のバランスが取れていると言えます。将来的にも「土間」や「座敷」を中心に交流施設としての利用の可能性は高いと思われます。

「地形舞台」は、山間の過疎地において古民家を後世に伝え、場所の記憶を継承しながらも、新たな活用の可能性を示す好例と言えます。集落や地域に与える影響も大きいでしょう。

【くぼみの家】

弘前市内の市街地に建つ本住宅は、2 階建ての母屋と渡り廊下とでつながる離れの和室とで構成されています。特徴は開口部のくぼんだ形状。そのくぼみを利用して、通気口、断熱サッシを納め、庇の役目も果たしています。逆に内側に突き出た部分には、パネルヒ

ーター、ロールスクリーン、間接照明がコンパクトに納められています。こうした発想は雪国の内にこもった日が長く続く冬を、少しでも暖かく開放的にしたいという地元設計者ならではの気遣いによるものと思われます。施主のご家族は、30代前半のご夫婦と二人の小さいお子さん。「美術館のような家」という要望から、サッシ枠や笠木の見えないシンプルな箱にし、離れと母屋をつなぐ2階テラスやそこから中庭に続く階段の手すりは、小さい子どもへの配慮よりもデザイン性を重視しています。

若い施主の暮らしを楽しみたいという思いと、若い設計者の柔軟な発想と高い技術とのコラボレーションが生んだ秀逸な作品として評価したいと思います。

【紅梅荘改築整備事業】

本建物は雪深い山形県北部に立つ特別養護老人ホームですが、緩い屋根勾配を持つ平屋とし、大規模な施設を分節し周辺環境によく溶け込む工夫がなされています。雪の処理を考えると、外部に緑地帯を作ることに躊躇しますが、同種の施設には見られない緑豊かな外部空間を作り上げたことは設計者と施設運営者の連携と信頼を示すものです。外部空間は入居者にとって格好の癒しの空間でしょう。また、県内産の木材活用というコンセプトを徹底し、建築材料のみならずエネルギー源としての活用も図っています。さらに、屋根、床、外壁および開口部の断熱は高度に設計されており、エネルギー消費の面だけでなく、輻射環境等の温熱環境の面でも性能は高いと思われます。

今後、エネルギー消費量や室内環境などについて、具体的に評価し、その結果を公表することで、環境建築に人々の関心が集まることを期待します。

【こども園ひがしどおり】

本建物は、東通村が策定した「教育環境デザインひがしどおり 21」に基いた、幼小中一貫教育の入り口となる施設です。村内に分散していた施設を一つにまとめ、250名の園児を受け入れるため、河川を埋め立て、起伏を活かした敷地造成からはじまり、0~5歳児まで成長に応じた配棟計画が行われています。ホール棟と子育て支援室、そして幼児棟の屋根が、連なった切妻となり、園全体が景観を構成しています。

各棟は、地場の産材・製材の技術を駆使し、木造、あるいはRC造との混構造で構成されています。登り梁、ヒバの大木、ヒバのブロックアーチなど多彩な構造表現が見られ、園児に形への興味を誘発しています。構造のみならず、年齢に応じた成育に基づいた計画、長い冬を乗り切る温熱対策、幼稚園・保育園に関する法的問題の解決策など、意匠・技術とも高いレベルにあり、こどもたちとスタッフの姿からは、本建物に対する愛着が伝わってきます。

下北の技術と文化を継承し、こどもの健やかな成長を促す環境を形成している秀逸な作品として高く評価されました。

【まちの工房まどか】

障害者の福祉施設が周囲の住民と日常的に交流を図るということは、た易く実現できるものではありません。交流を謳いながらも、実際には十分に機能していない事例が少なくないことを見れば、建築設計上の難しさについては、言を待たないところです。

障害福祉サービス事業所として建築されたこの施設は、「交流と学びの館」を標榜している通り、見事に周辺住民との交流が実現され、工房での障害者達の明るい笑顔との融合が実践されている、正に特筆すべき施設と言えましょう。木造平屋建ての比較的小規模な施設に凝縮された内部空間には、個々のコーナーの寸法的な「こじんまりさ」を超えた感覚的な広がりを感じられ、障害者運営のカフェやベーカリーを訪れる人々に穏やかなひと時を提供しています。それらは設計者の障害者福祉に関する「思い」によって実現されているところが大きく、中央を突き抜けるように配されたアートギャラリー、要所に設けられた光庭、開放的なピロティなどにもその一端が窺えます。作品賞に相応しい秀作の一つと言えましょう。

特別賞

【花壇の立体長屋】

近年は、フローの時代からストックの時代と言われています。住宅についてもスクラップアンドビルドによる新築だけではなく、中古住宅をリノベートして有効活用していくことが求められてきています。

本作品は、築30年以上が経過したマンションの住戸を、家族のライフスタイルに合わせてリノベーションしたものです。新築とは異なり、さまざまな厳しい制約条件が存在する中で、旧来の最大公約数型の〇DKから、この家族らしい「文」を加えたパブリックとプライベートの分離とそれらの交わり・繋がりを有する、オンリーワンの居住空間へと再構成されています。十分な収納の確保をはじめとして住まいやすさには十分に配慮されており、また秀逸な照明の使い方をはじめとしてデザイン的にも非常に優れています。やや惜しむらくは、「長屋」らしい住戸と外部共用空間の再定義の工夫がもう少し見られると、さらに素晴らしい作品となったに違いありません。

とはいうものの、このような先駆的意欲的な作品は、東北建築賞特別賞にふさわしいものと認められます。

【えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）】

えぼか（本宮市民元気いきいき応援プラザ）は、本宮市民の健康づくりと地域福祉向上を図るための公共施設です。1階には高齢者をはじめとする多世代交流のためのコーナーや子育て支援のためのサロンといった毛色の異なるスペースが仕切りを設けずに存在してい

るものの、それぞれの空間の繋がりに無駄がなく、上手に表現されています。又、それらのスペースを確保するための構造設計には、苦心したであろう跡が随所に伺えます。更に、2階には、市役所事務室が配置されていますが、使用頻度が高い高齢者のことを考えた動線計画となっています。これらのことが、審査委員会において、高い評価を得ました。しかし、入口から入った時に、本施設の見玉ともいえる「こどもの家」への視界が階段によって遮られてしまう点や外観のデザインへの指摘がありました。

以上の評価に加えて、震災以降の福島県にある公共の子育て施設として、市民に評価されている点は、地域への貢献が高いことから、本施設は特別賞にふさわしい作品であると評価されました。

第34回東北建築賞作品賞選考委員会

- 選考委員長 ・坂口大洋 仙台高等専門学校建築デザイン学科
委員 ・飯藤将之 仙台高等専門学校建築デザイン学科
・最知正芳 東北工業大学建築学科
・齋藤俊克 日本大学工学部建築学科
・増田 聡 東北大学大学院経済学研究科
・竹林芳久 東北学院大学工学部環境建設工学科
・新井信幸 東北工業大学建築学科
・西村明男 (株)佐藤総合計画東北事務所
・藤原 薫 (株)鈴木建築設計事務所
・姥浦道生 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻